



幸せは自分の心が決めること。
障害があるからこそ、キラキラ輝きたい。
甲府教会 池田侑希巳さん

池田侑希巳さんは、二分脊椎症という障害をもつて生まれた。両脚の運動機能の麻痺、水頭症も併発し、車イスの生活を余儀なくされる。子どもの頃は、障害を乗り越えて欲しいとあえて厳しく接する母の態度、自分とは違い健康に育つ弟と妹へのねたみ、そして小・中学校のクラスメートからのいじめによって、「私はいらない人間なんだ」と心を閉ざす。しかし、同じ障害者を描いた本から「つらいのは自分だけじゃない」と悟り、また親身になって支えてくれた母の友人の存在に心が癒されていく。その後、支援学校、専門学校を経て地元の銀行に就職。さまざまな人との出会い、学習機会により「幸せは自分の心がつくっていくものだから自分から行動しよう」と実感していく。現在、仕事や地域の活動に積極的に取り組んでいる侑希巳さんの笑顔は今を精一杯生きている輝きに満ちている。

幸せの鍵は「自分」に

宗教は、他人をとやかくいったり、世の中が悪いと非難することではなく、いつもまず「自分はどうか」を問うことを大事にします。他がどうであれ、あくまでも自分の心や行動を見つめ、それが良心にも道理にもかかっていないかどうかを内省することが大切なのです。

ただ、このように「自分のこととして受けとめていく」というと、何もかも一人で背負い込み、自分の至らなさを見つめて、それが自己否定につながり、落ち込んでしまう人もいるかもしれません。しかし、「すべては自分」と心の重荷にするのではなく、「あらゆるものごととは、私を幸せにしてください」と肯定的に受けとめ、前向きに生きることが大切なのです。

立正佼成会